
斬～賢者の光～

春夏秋闘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

斬る賢者の光る

【Nコード】

N3256J

【作者名】

春夏秋闘

【あらすじ】

賢者によっていにしえの霸王を倒した。
しかし悪夢は再び蘇る。

序章

遙か昔、三人の賢者がいた。

名はマテウス、ルジエ、カルヴォル。

この三人の賢者たちは皆、各大陸を守り、平和な毎日を民は過ごしていた。

しかし平和は永遠には続かなかった。

霊峰・ジルドラ山の奥深くに眠る霸王、ライゴアが目覚めたのだ。

死に怯える民を救う為、賢者たちが立ち上がった。

賢者たちは苦戦をしながらも霸王を何とか倒し封印することに成功した。

新たに訪れる平和に民は霸王を忘れていくようになった。

しかし、平和は永久に続くものではない。

第2章 ルカとガルバ

爽やかな空気、心地好い光、豊かな緑。
エヴァニール王国の東にある山村、ノエル。
この静かな村に金属音が鳴り響く。

「キン！ガキン！！ガキャン！！！！」

「立て！！ルカ！！！！」

長身で細身の男が叫ぶ。

「ガルバさん、休憩しましょうよ」

青い髪の青年ルカは村では1番の剣術士。

「何を言ってる！これぐらいでへたれてたら剣術会では話にならんぞ」

大剣を抱えるガルバはその昔、賢者を護衛していた剣士。

故郷のノエルを守ると共に同じ剣士であるルカの指導役をしている。

「次、行くぞ！！ハアアア！辻風斬り！！！！！！」

ガルバの振り下ろした刀から放たれた風が、空気中で刃になりルカに襲いかかる。

「くっ！またその技かよ！水臨剣！！！！」

ルカの斬撃も、水を纏いガルバの風の刃に襲いかかる。

が、風の刃は水の力を切り裂きルカに直撃する。

「ぐああ！！はぁ、はぁ、水臨剣が歯も立たないなんて」

ガルバは刀をおさめ、

「お前の水臨剣にはキレが無いからな。本当なら辻風斬りを使わずとも勝てるさ」

そう嫌みたらしく言うと言ガルバは背中を向け、

「村に帰るぞ、先に待つてる」

そう言うとき小さな鳥がガルバを包み一瞬にしてガルバは消えた。

「はぁ、一人で帰らせるのかよ」

仕方なくルカは村への山道を下ることにした。

辺りは静かで平和とは言え、魔物が出る。

ルカはこの魔物たちと戦い、力をつけてきたのでノエルの辺りの魔物は話にならない。

口笛を吹いて帰ることが出来るのだ。

ルカが山道の中腹に差し掛かり、草村から大きな物体が現れる。

「魔物か！！ん？見た事もねえ新顔だなあ。だがノエルじゃ俺には敵無しだぜ」

そう言うところを剣を突き出し、

「食らいな、水臨剣っ！！」

水を纏い魔物に襲いかかる。

しかし魔物は簡単に避け、右の爪でル力を切り裂く。

「な、なに！？こんな魔物、ノエルじゃ有り得ない」

更に魔物の追撃が来る。「くっ！間一髪で避けれたけど、このままじゃ・・・」

その間に魔物は口を開き、赤い炎を吐き出す。

「はっ！やばい！！！！」

炎はル力に一直線で向かいル力は身動きが取れない。

「辻風斬りい！！！」

鋭い風が炎を吹き飛ばした。

「ガルバさん！？」

「帰りが遅いから来てみたら魔物か。しかしこいつ、まさか・・・」

「!?」

突然魔物が炎をガルバへ向けて放つ。

素早く反応したガルバは炎を避け一瞬にして魔物の頭部へ。

「一生寝てろ。風塵!!」

強烈な風がガルバの剣に宿り、魔物を切り付ける。

魔物は一瞬雄叫びを上げ、反撃するかに見えたが、そのまま息絶えた。

「ガルバさん、あの魔物は一体・・・」

ガルバは黙って魔物を見つめ、ルカと戦うときよりも恐ろしく、陰しい表情をしている。

「ガルバさん??」

「ルカ、今日こんな魔物がいた事は決して村人に言うな」

「なぜ?」

そう言われるとガルバはルカを睨みつけ、

「黙ってると言つのがわからないか?」

「はい、わかりましたよ・・・」

ガルバは笑いながら、

「そうか、では村へ帰るぞ」

ガルバはルカと村へ帰ってゆく。

しかしルカは疑問だった。「なぜあんな魔物がいたのか」「なぜガルバは内緒にしろと言ったのか」

たくさんの悩みを抱えたルカだが疲れからかすぐ眠りにつく。

今はゆっくり休むルカだが、このことが大変な事だとルカは知る事になるだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3256j/>

斬～賢者の光～

2011年10月6日14時22分発行